TOREX IR REPORT VOL.7

第23期 中間報告書 2017.4.1 > 2017.9.30

巻頭特集

生活を支える トレックスの 電源IC

**トレックスの電源ICが
どんな場面で使用されているのか
ご紹介します。**

CONTENTS

- P1 生活を支えるトレックスの電源IC
- P5 トップメッセージ
- P9 連結財務ハイライト
- P10 会社情報・株式情報・株主メモ
- 裏表紙 About トレックス Vol.7
  「半導体・オブ・ザ・イヤー2017」優秀賞受賞！

TOREX
トレックス・セミコンダクター
証券コード 6616

巻頭特集

生活を支えるトレックスの電源IC

当社が提供する電源ICは、独自の省電力・小型化技術で、
スマートフォンやパソコンなどのポータブル機器から、カーナビや
バックモニターカメラのような車載機器、監視カメラや産業ロボットなどの
産業機器、家電やウェアラブル機器に至るまで、私たちが生活する上で
必要となる様々なシーンの電子機器に採用されています。
今後需用が拡大していくIoT分野でも、トレックスの電源ICが
採用されるシーンは拡大します。

詳細はP3へ

電気を必要とする機器には
すべて電源ICが使われています

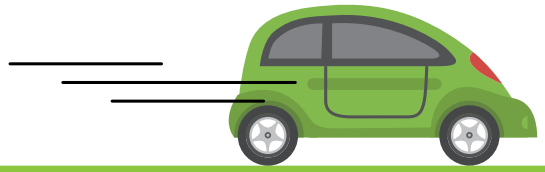
詳細はP4へ

ところで「電源IC」ってなに??

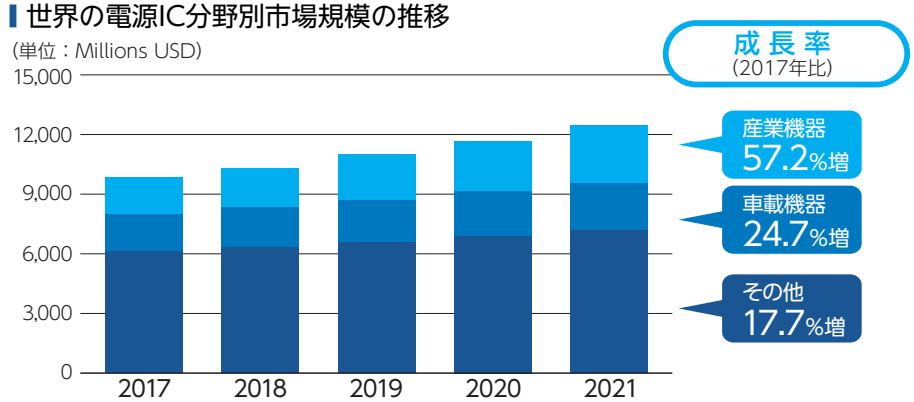
「電源IC」は人間の体にたとえると心臓です。
電源ICは、供給元からの電圧を各部品が動作する最適な電圧に変換し、安定的に供給する部品で、電子機器の心臓の役割を担っています。
その中で当社の超小型・省電力の技術は世界トップクラスを誇り電子機器のさらなる小型化、電池の使用時間延長に貢献しています。

車載・産業機器分野の成長

これからの電源IC市場は車載・産業機器分野において、相対的に高い成長が期待されています。



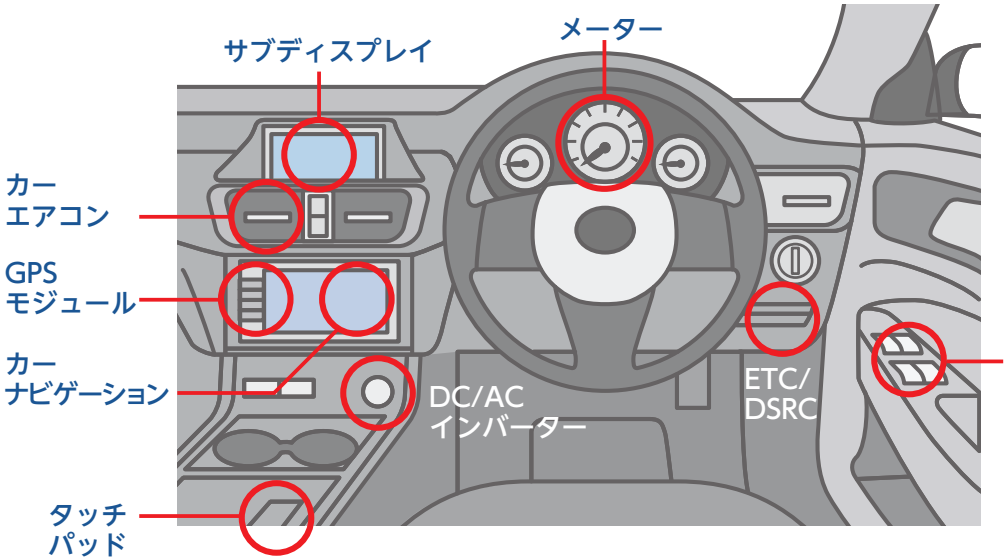
世界の電源IC分野別市場規模の推移

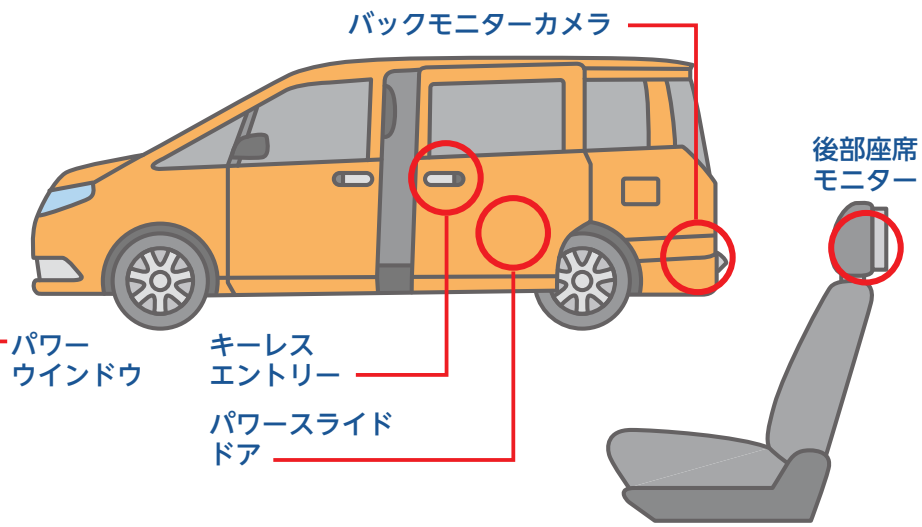


出典：IHS Global株式会社調べ(2017年)

車載機器

近年自動車の電装化が急速に進む中、今後も自動車に搭載される電子部品の増加により、高性能・高品質な電源ＩＣの需用も拡大することが見込まれます。
当社では、自動車メーカーが求める基準に応えるべく、中高耐圧、大電流、高温に対応した車載向け高品質製品のラインナップを拡充し、車載向けビジネスを拡大してまいります。

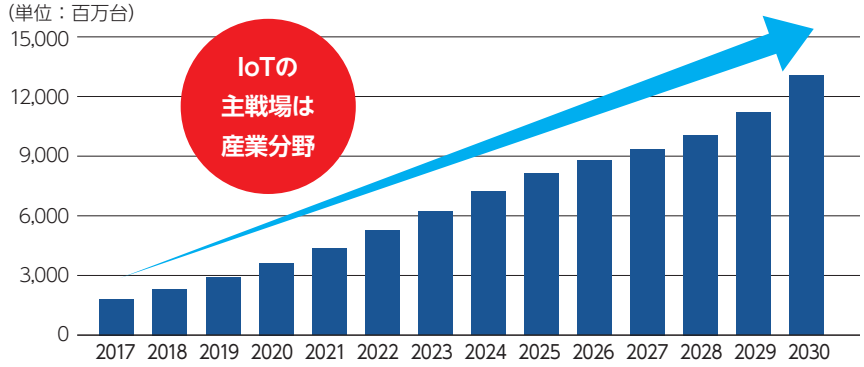




IoTデバイスの需用拡大

あらゆるモノがインターネットでつながり、様々な情報を相互に通信することから、IoTデバイスは今後増加が見込まれます。その中でも、産業機器分野が大きく拡大すると考えられています。

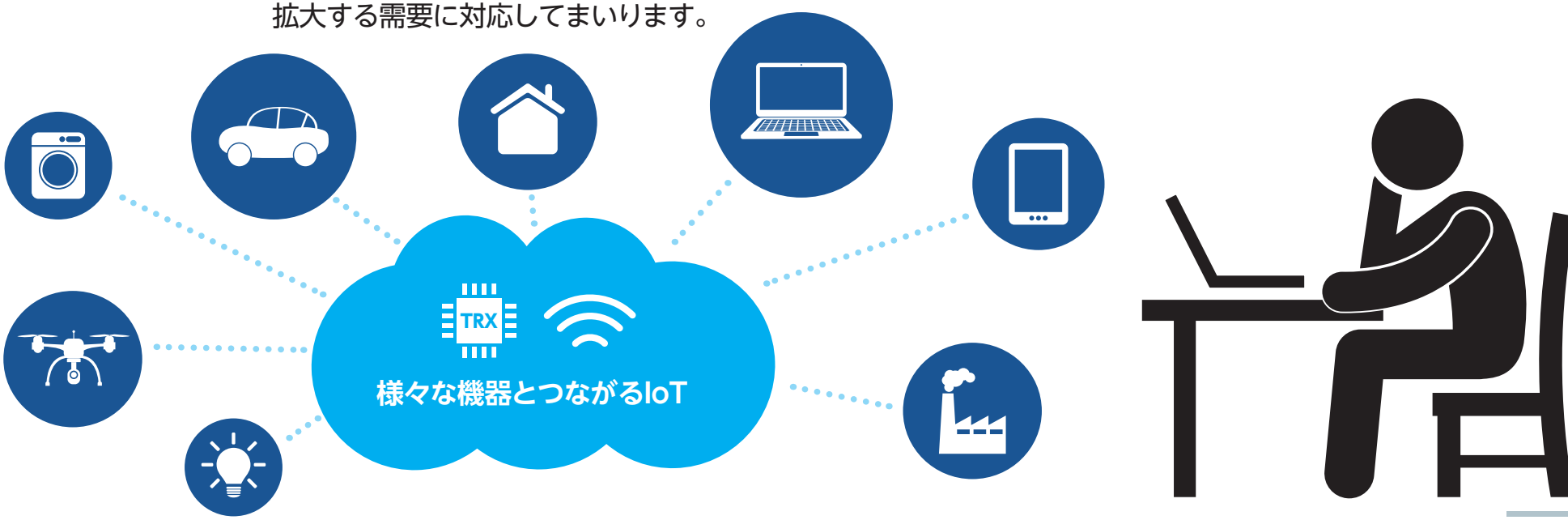
産業分野におけるIoT端末の台数の推移



出典：IHS Global株式会社調べ(2017年)

IoT分野

たとえばIoTデバイスに搭載される様々なセンサーには、小型・低消費の電源が必要とされています。
これは当社が長年培ってきた強みが活かせる市場です。
これからも超薄型・超小型・低消費・高効率製品などのラインナップを拡充し、
拡大する需要に対応してまいります。



トップメッセージ

来期から始動する3ヵ年の中期経営計画を策定。売上

ごあいさつ

株主の皆様におかれましては、日頃より当社事業へのご理解とともに厚いご支援を賜り、心より御礼申し上げます。

当社は、2016年4月にフェニテックセミコンダクター株式会社（以下、フェニテック）を子会社化し、統合によるシナジーを追求しながら、グループ全体の成長性及び収益性の向上に取り組んでいます。

第23期（2018年3月期）上半期の営業状況は、半導体市場の活況を背景に好調に推移し、特にフェニテックが計画以上の成果を上げ、全体の伸びを牽引しました。結果として上半期の連結業績は、売上高118億8百万円（前年同期比14.5％増）、営業利益10億90百万円（同181.6％増）、経常利益11億7百万円（前年同期は2億57百万円の損失）、親会社株主に帰属する四半期純利益5億1百万円（前年同期比78.5％減）となりました。下半期も引き続き好調に推移することを見込み、通期の連結業績を期初の予想数値から上方修正しています。

そして当社は、このたび第24期（2019年3月期）から始動する3ヵ年の中期経営計画を策定しました。本計画を通じてグループの総合力を高めつつ、市場の変化を捉えた成長戦略を推進し、さらなる企業価値の拡大を実現してまいります。

代表取締役 社長執行役員 **芝宮 孝司**

Q 第23期上半期を振り返り、営業状況をご説明願います。

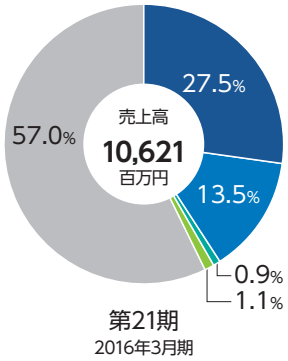
A フェニテックの好調が牽引し、計画を上回る増収・増益を遂げました。

2017年前半の世界半導体市場は、メモリICの大幅な伸びをはじめ、ディスクリートやアナログICも前年を上回る拡大を示し、全般的に活況を呈しました。その中で当社の上半期における事業環境も良好に推移し、グループ全体として順調な営業状況となりました。

フェニテックを除く旧トレックスグループ（以下、トレックス）は、売上高が前年同期比でほぼ横ばいとなりました。地域別に見ると、トレックスの売上の4割を占める日本国内は、・産業機器向けが拡大したものの、デジタル家電、その他民生品向けの売上が振るわず、全体では減収となりました。アジアでは、車載機器向けの伸び悩

アプリケーション別売上高

（旧トレックスグループのみ）



高300億円・営業利益30億円を目指します。

みが続きましたが、産業機器向けやデジタル家電向けで売上を伸ばしました。欧州は、産業機器、家電向けを中心に好調に推移し、北米は、産業機器、家電向けが低調でしたが、デザイン・イン・ベース売上高※は堅調に推移しました。なお、為替が前年同期より、円安で安定したことも、増収要因の一つとなっています。

一方、半導体の受託製造を主とするフェニテックは、特に北米における受注が拡大し、さらに他の地域も堅調に推移したことにより、売上高は大きく伸長しました。これにより工場の稼働率が向上し、利益面においても大幅な改善を果たしました。

以上の結果、トレックスとフェニテックを合わせた当社グループ全体による連結業績は、売上高・利益ともに期初の計画を上回り、増収・増益で上半期を折り返しました。

※当社の製品を搭載した製品が企画・設計され、実質的に受注を獲得した地域をベースとした売上高

Q 上半期におけるトピックスをお聞かせください。

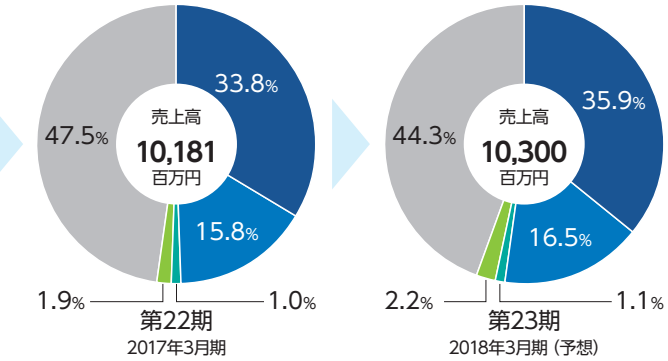
A **名古屋営業所を開設。中京地区における重点市場展開を強化します。**

今年6月、中京地区の営業拠点として愛知県名古屋市に「名古屋営業所」を開設しました。これは、車載機器・産業機器・医療機器の3分野を中心とする、成長性の高い重点市場への展開に向けた体制整備の一環です。

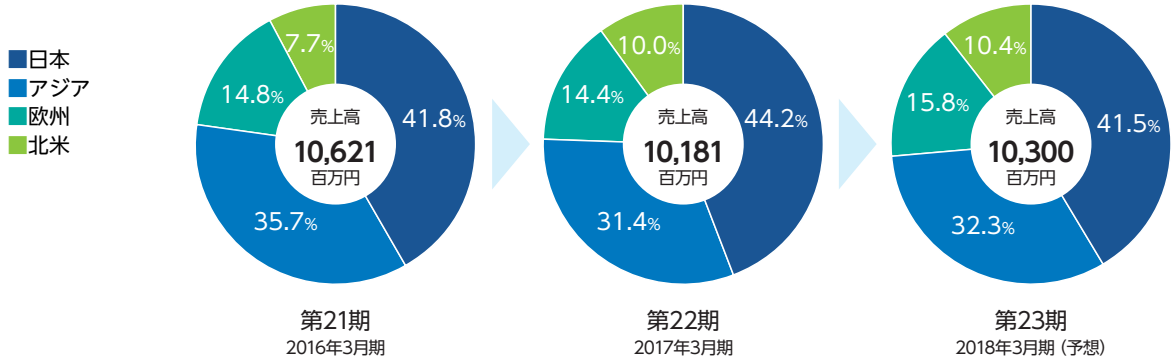
当社グループは今後、名古屋営業所を中心に、中京地区における車載機器、産業機器およびアミューズメントビジネスへの対応を強化・拡充し、地域に密着した営業・技術サポートを推進することで、重点市場攻略への強固な営業基盤を確立します。さらに、昨年5月に大阪府に開設した開発拠点「関西技術センター」と連携し、開発・営業・品質管理の三位一体による高品質な顧客サポートを提供していきます。

また同じく今年6月、電子デバイス産業新聞主催「半導体・オブ・ザ・イヤー2017」の半導体デバイス部門において、当社グループの5.5V同期整流降圧DC/DCコンバータ「XC9273シリーズ」が優秀賞を受賞しました。「半導体・オブ・ザ・イヤー」は、最先端のIT機器・産業を支える優れた半導体製品を毎年選定し、その貢献を称えるべく表彰しています。

「XC9273シリーズ」は、独自の高速過渡応答制御HiSAT-COTの搭載により、低電圧下で高精度・高効率を実現する小型製品として高く評価されました。今後、このHiSAT-COTを多くの製品に搭載し、さまざまな低電圧駆動ニーズへ展開していくことで、業績への大きな貢献が期待できます。当社グループは今回の受賞を励みに、さらなる技術イノベーションを追求し、これからも顧客企業にとって価値の高い提案を行ってまいります。



地域別売上高（旧トレックスグループのみ）



Q 下半期の展望と通期業績の見通しはいかがですか？

A 下半期も引き続き好調を見込み、通期業績予想を上方修正しました。

下半期は、引き続きフェニテックが北米を中心に受注を拡大し、売上高・利益の伸びを牽引していく見込みです。またトレックスは、北米および欧州における好調の維持とともに、日本国内でも重点市場3分野におけるシェア拡大が期待でき、上半期よりも業績が改善していくと予想しています。

通期の連結業績については、上半期において計画を大幅に上回って着地したこと、また下半期の展望を踏まえ、期初の予想数値を上方修正しました。具体的には、売上高238億円（前期比10.4％増）、営業利益20億円（同59.9％増）、経常利益19億円（同109.8％増）、親会社株主に帰属する当期純利益9億円（同69.3％減）を見込んでいます。売上高の内訳としては、トレックスの売上高が前期の101億81百万円から103億円へ、フェニテックの売上高が前期の113億78百万円から135億円へ、それぞれ増加する想定です。

なお当社グループは、このたび新たに3ヵ年の中期経営計画を策定しました。

Q 新たに策定された中期経営計画の詳細をご説明願います。

A 3年間で約26％の売上高成長、約50％の営業利益成長を目指します。

当社グループは、来期（2019年3月期）から始動する3ヵ年の中期経営計画を策定しました。本計画は、最終年度（2021年3月期）の連結業績における「売上高300億円」「営業利益30億円（営業利益率10％）」の達成を目標に掲げます。これは前述しました当期の連結業績予想値に対し、3年間で約26％の売上高成長、約50％の営業利益成長を遂げていくものです。

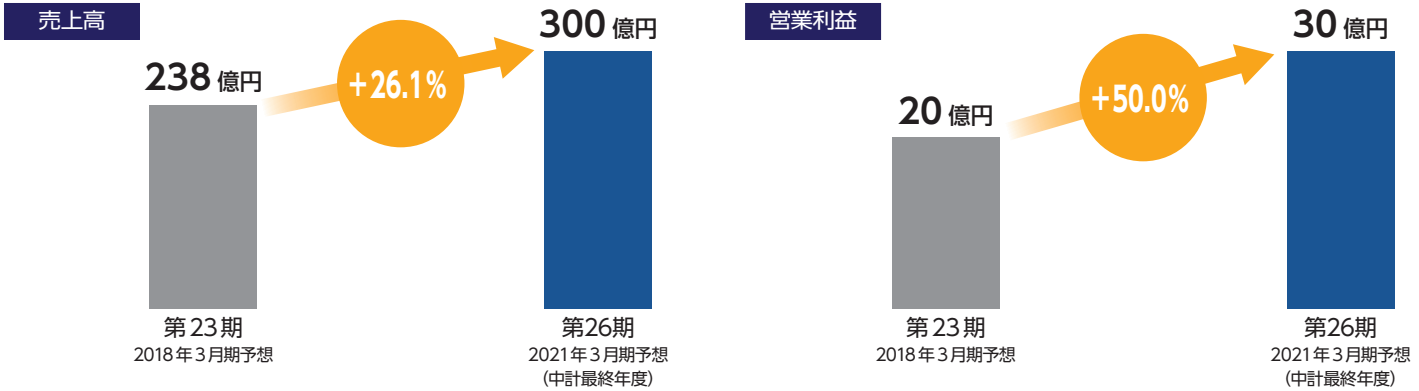
これらを実現するための基本方針として、トレックスは、強みである低消費・小型・低ノイズの製品開発を深掘りし、付加価値を構築していくことで、重点市場の車載機器分野およびIoTを含む産業機器分野における拡大を目指します。その中でも、特に高付加価値製品として認められているDC/DCコンバータの開発・販売に注力していきます。

次に重点戦略について述べますと、トレックスでは「重点市場でのシェア向上」「ディスクリートビジネスの確立」「コーポレートガバナン

トレックスグループの定量目標（2021年3月期 連結業績）

売上高
300 億円

営業利益
30 億円
（営業利益率 10%）



ス・IRの強化」の3つを推進していきます。

このうち「重点市場でのシェア向上」は、注力3分野における拡大を図りつつ、IoT市場に向けた超薄型・小型低消費電流製品を拡充し、さらにDC/DCコンバータにおける中高耐圧・大電流製品の開発を強化します。「ディスクリートビジネスの確立」は、フェニテックとの共同開発を進める一方で、OEM活用によりラインナップを拡充していく考えです。

フェニテックは、40年以上にわたり培ってきたディスクリートの自社開発機能を活かし、高品質製品を安定供給できる強みを最大限に発揮していくことで、車載機器分野・産業機器分野への展開を加速します。また鹿児島工場の有効活用により、当社グループ全体としてのシナジー創出を図り、従来以上に「尖った製品」を市場に投入できる開発体制を確立します。

Q 最後に株主の皆様へのメッセージをお願いします。

A **技術革新を支える付加価値を生み出し、発展し続けてまいります。**

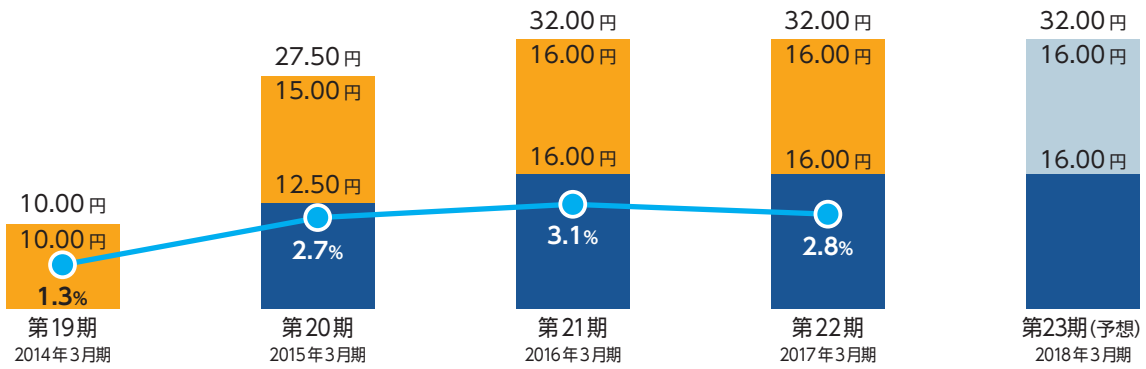
株主の皆様への利益還元については、業績水準を反映しつつ連結配当性向20%以上を安定的に維持し、さらに株主資本配当率(DOE)3%程度を目安として還元の拡充を目指す方針を掲げています。今回の中間配当は、予定通り1株当たり16円とさせていただきました。期末配当についても同額を予定し、当期の年間配当額を同32円(前期同額)とする計画です。

来期以降は、中期経営計画に基づく業績拡大を果たし、利益還元の水準を高めるべく努力してまいります。

当社グループは、創業以来22年にわたりアナログ電源ICの専業メーカーとして歩み続けてきました。この間、エレクトロニクス産業を支える半導体の需要は大きく拡がり、現在もAIやIoT、ロボット、車の電動化や自動運転化など多くの技術革新を社会にもたらしています。アナログ電源ICは、そうした技術革新の中で常に必要とされる存在であり、そこに付加価値を生み出し続けることで、当社グループの事業は未来永劫に発展していけると考えています。

株主の皆様におかれましては、引き続き一層のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

配当金の推移 ■中間配当 ■期末配当 ■配当予想 ●株主資本配当率(DOE)



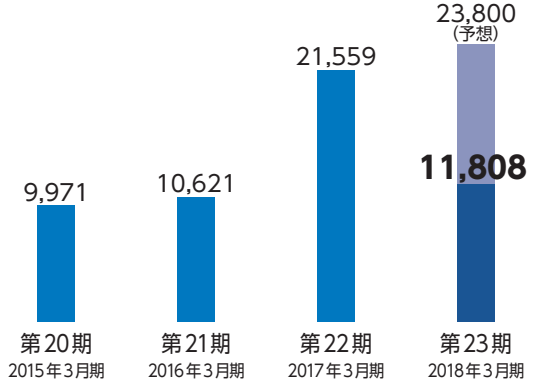
(注)当社は2013年12月16日付にて普通株式1株につき100株の割合で株式分割、2015年4月1日付で株式1株につき4株の株式分割を行っております。2014年3月期の期首に当該株式分割が行われたと仮定し、配当金額を算定しております。

■ 連結財務ハイライト

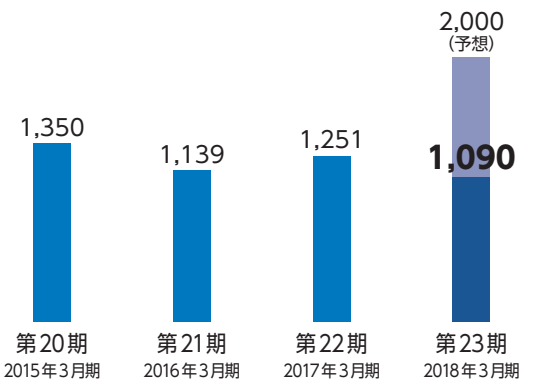
		第20期	第21期	第22期	第23期	
		2015年3月期	2016年3月期	2017年3月期	2018年3月期	
					第2四半期(累計)	通期(予想)
売上高	(千円)	9,971,975	10,621,282	21,559,622	**11,808,968**	23,800,000
営業利益	(千円)	1,350,203	1,139,901	1,251,098	**1,090,519**	2,000,000
売上高営業利益率	(%)	13.5	10.7	5.8	**9.2**	–
経常利益	(千円)	1,678,928	970,553	905,707	**1,107,212**	1,900,000
親会社株主に帰属する当期純利益	(千円)	1,247,728	580,401	2,930,551	**501,455**	900,000
総資産額	(千円)	13,170,991	12,972,871	25,209,563	**25,301,007**	–
純資産額	(千円)	10,889,371	10,928,988	15,597,571	**16,198,110**	–
自己資本比率	(%)	82.3	83.9	45.3	**46.6**	–
自己資本利益率（ROE）	(%)	13.3	5.3	26.3	**4.3**	–
営業活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	1,736,281	1,302,563	1,635,310	**729,663**	–
投資活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	△1,412,687	△169,423	2,714,677	**△433,865**	–
財務活動によるキャッシュ・フロー	(千円)	290,302	△422,349	△994,266	**△683,519**	–
現金及び現金同等物の期末残高	(千円)	6,478,864	6,855,452	9,714,789	**9,328,321**	–
１株当たり当期純利益金額	(円)	118.10	54.59	308.77	**55.60**	99.79
1株当たり純資産額	(円)	1,020.86	1,022.30	1,267.65	**1,306.64**	–
1株当たり配当額	(円)	110	32	32	**16**	32
配当性向	(%)	23.3	58.6	10.7	**28.9**	32.2

1. 売上高には、消費税等は含まれておりません。
2. 2015年４月１日付で株式１株につき４株の株式分割を行っております。2015年3月期の１株当たり指標(配当は除く)については連結会計年度の期首に当該株式分割が行われたと仮定して算定しております。

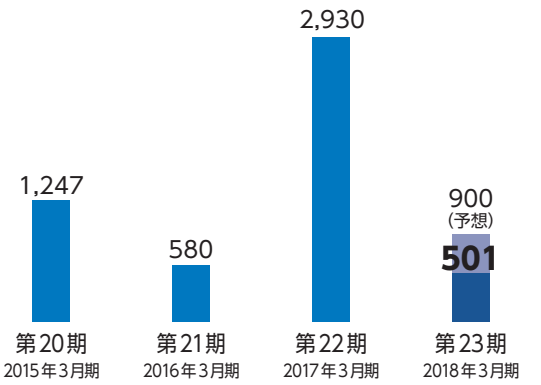
■ 売上高(単位：百万円)



■ 営業利益(単位：百万円)



■ 親会社株主に帰属する当期純利益(単位：百万円)



■ 通期　■ 当第2四半期(累計)　■ 予想

■ 会社情報 (2017年9月30日現在)

会社概要

社　　名	トレックス・セミコンダクター株式会社
所 在 地	東京都中央区新川1-24-1 ユニゾ新川永代通りビル3F
設　　立	平成7年(1995年)3月
資 本 金	18億3,817万円
事業内容	1. 半導体デバイスの開発、設計製造 2. 半導体デバイスの販売
従業員数	連結／986名　個別／165名

役員一覧

■ 取締役（監査等委員である取締役を除く）

代表取締役 会長執行役員	藤阪知之（ふじさかともゆき）
代表取締役 社長執行役員	芝宮孝司（しばみやこうじ）
取締役 執行役員	日笠基（ひかさもとい）
取締役 執行役員	後呂眞次（うしろしんじ）
取締役 執行役員	木村岳史（きむらたけし）

■ 監査等委員である取締役

常勤監査等委員(社外)	池田耕太郎（いけだこうたろう）
監査等委員(社外)	小松熙（こまつひろし）
監査等委員(社外)	川俣尚高（かわまたなおたか）
監査等委員(社外)	清水満昭（しみずみつあき）

■ 株式情報 (2017年9月30日現在)

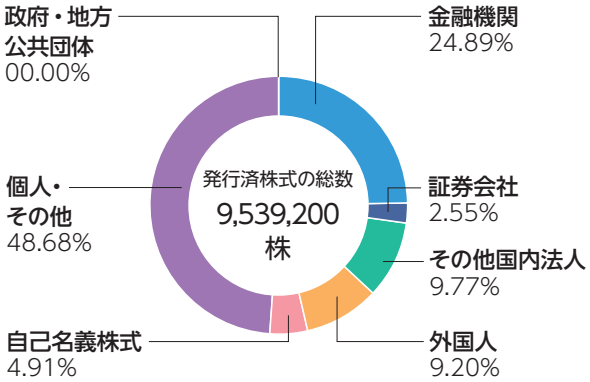
株式の状況

発行可能株式総数..... 36,673,600 株

発行済株式の総数.....9,539,200 株

株主数 ..... 2,663 名

所有者別株式分布



大株主（上位 10 名）

株主名	所有株式数(千株)	持株比率(%)
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	744	8.21
尾崎　正晴	679	7.49
藤阪　知之	498	5.49
アルス株式会社	452	4.98
株式会社中国銀行	440	4.85
日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口9)	384	4.24
日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	344	3.79
芝宮　孝司	290	3.20
資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	250	2.76
仲　剛志	162	1.79

1. 当社は、自己株式を468,338株保有しておりますが、上記大株主からは除外しております。
2. 持株比率は自己株式を控除して計算しております。

株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	毎事業年度終了後3ヶ月以内
株主確定基準日	3月31日
期末配当金株主確定日	3月31日
中間配当金株主確定日	9月30日
単元株式数	100株
株主名簿管理人	東京都千代田区丸の内 一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社
事務取扱場所	東京都千代田区丸の内 一丁目4番1号 三井住友信託銀行株式会社 証券代行部

郵便物送付先・連絡先	(郵便物送付先) 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号 (連絡先) 0120-782-031
公告方法	当社の公告方法は、電子公告としております。 ただし事故その他やむを得ない事由により電子公告をすることができないときは、日本経済新聞に掲載しております。 当社の公告掲載URLは次のとおりです。 https://www.torex.co.jp/

About トレックス

アバウト・トレックス　Vol.7

TOREXにまつわる色々なことをご紹介します。

「半導体・オブ・ザ・イヤー2017」優秀賞受賞！

電子デバイス産業新聞主催「半導体・オブ・ザ・イヤー2017」の半導体デバイス部門において、最新のエレクトロニクス製品の開発に最も貢献した製品として、DC/DCコンバータ「XC9273シリーズ」が優秀賞を受賞いたしました。

今回受賞した「XC9273シリーズ」は当社独自の高速過渡応答制御HiSAT-COT※を搭載しており、FPGAやマイコンなどの駆動電圧を下げなくてはならないときや、その周辺をカバーするために必要な電源ICとして、いち早く独自の技術を用いて高精度で小型な製品を開発した点を評価いただきました。

※従来品制御の負荷過渡応答に比べ、出力電圧の変動と出力電圧の収束時間を大幅に改善できる回路技術です。

受賞コメント

「XC9273シリーズ」は、独自の制御技術で負荷変動と周波数変動を抑えた、低電圧帯で世界最速クラスの過度応答を実現した製品です。

開発には3年を要しており、試作ができた後も高精度な測定が必要で、量産安定化に苦労しました。

家電や車載向けとしての引き合いが多く、営業担当とともに各地に出張し、お客様に直接説明する機会が増えています。

お客様からの貴重なご意見を参考に、今後は中高耐圧製品などの開発を進めていきたいと思っています。

事業本部汎用製品ビジネスユニット第一製品グループ
渡邊 絢一（写真左から2番目）

当社の最新情報は
WEBサイトでご覧いただけます。

トレックス

https://www.torex.co.jp/

トップページ

https://ir.torex.co.jp

IR情報

トレックス・セミコンダクター株式会社
〒104-0033　東京都中央区新川1-24-1
ユニゾ新川永代通りビル3F
TEL　(03)6222-2851

UD FONT
見やすく読みまちがえにくいユニバーサルデザインフォントを採用しています。

VEGETABLE OIL INK
環境に配慮した植物油インキを使用しています。

FSC www.fsc.org
ミックス 責任ある木質資源を使用した紙
FSC® C022915